

司会（加藤）

定刻となりましたので、只今より大学評価・学位授与機構公開講演会「高等教育における中国の躍進」を開催いたします。本日司会進行を務めさせていただきます、大学評価・学位授与機構の加藤と申します。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

本日の予定でございますけれども、お手元の配布資料をご参照いただけますでしょうか。資料の不足等がございましたら、お手数ですが会場のスタッフまでお知らせいただきますようお願い申し上げます。

配布資料の中にアンケートがございます、当機構の今後の講演会等の参考にさせていただきますと考えておりますので、是非ご記入をお願いしたいと思います。

ご記入いただきましたアンケート用紙は、本講演会終了後に会場出口でスタッフが回収にあたります。また、受付にも回収箱を常時設置しておりますので、ご利用いただきますようお願い申し上げます。

なお、本日それぞれの講演の終了の後に質疑応答の時間を設けてございます。皆様方の積極的なご質問等をいただければと考えているところでございますので宜しくお願い申し上げます。

それでは、本講演会の開催にあたり、はじめに主催者を代表いたしまして、大学評価・学位授与機構 機構長でございます、木村 孟より、開会の挨拶を申し上げます。

木村

私、只今ご紹介いただきました、大学評価・学位授与機構の木村でございます。今回、「高等教育における中国の躍進」と題しました公開講演会を開催することになりましたが、開会にあたり、一言ご挨拶を申し上げたいと存じます。本日は大変お忙しい中、このように多くの皆様方にお集まりいただきましたことに対しまして、心より御礼を申し上げたいと存じます。

今回、この講演会を開催するにあたりまして、5名の中国の高等教育関係者の方々をお招きし、うち3名の方々にご講演いただくことを予定しております。遠路遥々お越しいただきました中国の皆様には心より感謝申し上げます。また、在日中国大使館におかれましては、今回の開催にあたりご後援ならびに様々なご支援を賜りました。この場をお借りしまして御礼申し上げます。特に、李公使には大変お世話になりました。ありがとうございました。

さて、この講演会「高等教育における中国の躍進」の開催に先立ち、なぜこのような講演会を開催するに至ったか、それについて簡単に経緯を述べさせていただきますと存じます。高等教育のグローバル化が世界で進行する中、私どもは、わが国が地域的・社会的に関連の深いアジア地域の質保証機関と連携していくことが非常に重要であると考えており

ます。当機構におきましては、海外の質保証機関と連携することによりまして、その情報を収集し、より優れた評価システムを構築すべく努力しているところでございます。その一環として、当機構は、アジア太平洋地域の高等教育の相互理解の促進を図りますために、APQN -Asia Pacific Quality Network、アジア太平洋質保証ネットワークという国際組織に加盟致しまして、国際的な質保証の取り組みを各国・地域と連携を取りながら推進しているところでございます。ちなみに、2008年のこのAPQNの総会は、私ども機構の主催のもとで東京で行われることになっております。来年の2月は、マレーシア・クアラルンプールで行われる予定でございます。

アジアの国々の中でも、留学生交流をはじめとして我が国と特に深い関係を持っております中国においては、近年大学教育の分野で目覚ましい発展があります。また、その高等教育の規模も飛躍的に拡大しております。そのような中国の高等教育政策、高等教育の質保証についての最新の動向を直接関係者の方々に伺うことは、日本の高等教育の質保証に携わる方々は勿論の事、全ての高等教育関係者にとって意義のあるものではないかと考えております。

私も、5月に中国へ参りまして、実際に日本の文部科学省にあたります、中国教育部へ伺い、この計画についてご説明を申し上げ、しかるべき方にお越しいただきたいという風をお願いをして参りました。その結果、5名の方に来ていただいておりますが、この講演会につきましては、まず、中国教育部高等教育局巡視員兼教育部高等教育教学評価センターの所長でいらっしゃる劉鳳泰先生に、「中国の高等教育及び高等教育教学評価」と題したご講演をいただきます。次に、國務院学位委員会弁公室質量監督・情報課副課長でいらっしゃる任増林様に「大学院教育の質保証と監督」と題したご講演をいただきます。最後に、同済大学副学長でいらっしゃる李国強先生に、「質意識の確立と外部の質監督及び内部の質保証への取組み」と題したお話をいただくことになっております。

先程、司会の方から申し上げましたように、それぞれの講演の後に質疑応答の時間を設けてございますので、会場にお集まりの皆様方におかれては、是非、活発なご討議を賜りますようお願いを申し上げます。本日の講演会が、お集まりいただいた皆様方にとって、中国の高等教育の質保証、ひいては日本の高等教育の質保証についての見識を深める一助となればという風に考えております。

先程申し上げましたように、中国が高等教育の分野で非常に発展をしているということは皆様方はすでにご承知の通りでありますけれど、きちんとした情報がなかなか得られないという問題があります。そういうことで、本日は非常にいい機会でございますので、是非活発なご議論をお願いしたいと存じます。

最後に、会場にお集まりの皆様、また遠路遥々東京に来ていただきました我々の友人である中国の皆様にもう一度感謝の言葉を述べさせていただきます、開会の辞とさせていただきます。

きます。どうもありがとうございました。

司会（加藤）

ありがとうございました。次に、ご後援をいただいております、中華人民共和国駐日大使館の李 東翔公使参事官様からご挨拶をいただきます。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

李

日本国大学評価・学位授与機構長 木村 孟様、中国教育部高等教育教学評価センター所長 劉 鳳泰様、ご来賓の皆様、学者の皆様、こんにちは。

本日は、大学評価・学位授与機構主催の中国高等教育改革と発展をテーマとする講演会にお招きいただきまして大変光栄です。はじめに中華人民共和国大使館を代表して会議の開催に対して熱烈な祝賀の意を表し、この度の講演会の開催にご尽力いただいた大学評価・学位授与機構の皆様に対して心より感謝申し上げます。また、この場をお借りして劉所長を団長とする中国の同胞のご来場に熱烈な歓迎の意を表します。

中日国交正常化以来、両国政府と民間の共同努力のもと、両国の教育における協力と交流は順調に発展し、喜ばしい成果を挙げました。また、このことは両国の各分野における協力の強化、友好関係発展の促進につながりました。

近年、特に両国の教育における交流の規模は絶えず拡大し、協力のレベルは向上し、交流の形式も日々多様化しています。それにも関わらず、日本で中国高等教育の改革と発展をテーマとする講演会は決して多いとはいえません。日本の権威ある教育評価の機関が中国高等教育評価の機関の専門家を日本に招いて、中国の高等教育改革と発展について講演会を開催するのは、これが初めてのこともかもしれません。このことは、中日両国の教育における協力と交流が一層深まり、中日両国の教育分野における協力がさらに大きな可能性を秘めていることを示しています。

周知の通り、中日両国は共に東洋の国であり、両国の人民は一体となって輝かしい東洋文明を築いてきました。両国の文化と伝統には多くの共通点と似通った面があります。このため、社会制度は異なっても、教育制度の面では、過去の長い歴史において両国には多くの共通点があります。その中でも最も代表的なものは、政府が学校の経営と教育活動において比較的集中した管理を行っている点です。近年、世界の経済一体化のプロセスが加速するに伴い、両国の高等教育は、熾烈な国際競争のもと、いかに国際化に適応できる有能な人材を育成するか、と同時にいかにハイレベルな科学研究協力を展開するかといった重要な問題に直面しています。このため、両国は、高等教育の管理体制から教育内容に至る大規模かつ抜本的な改革を行いました。そのうちの共通の方法としては、学校の運営自主権を拡大して学校に十分な自主性を発揮させることで、独創性ある教育研究活動を展

開するのに役立つというものです。

政府が以前のように学校に対して直接的で行き過ぎた関与をすることはなくなったものの、国民が良好な教育を享受できるように保証し、学校が社会の発展のためにより良いサービスを提供するという義務を果たしているかどうかを監督するためには、より有効な新たな手段がなくてはなりません。その中でも、評価制度の導入と強化は教育の質を保証する重要な措置のひとつです。教育評価は中日両国のどちらにとっても新しい制度ですが、中日両国の高等教育が異なる発展段階にある以上、直面する矛盾や問題はそれぞれ異なります。例えば、まもなく全入時代に突入する日本の高等教育で直面するであろう最大の課題は、人口減少によって教育資源が過剰になり、学校運営が困難になるのをいかに克服するかという点です。これに対して中国は、高等教育が大衆化時代に入ったばかりであり、限りある良質な教育資源では経済社会の発展と広範な国民の教育に対するニーズをとうてい満足させることができないという問題に直面しています。しかし、学生が不足する日本にしろ、教育規模が拡大し続ける中国にしろ、いずれもいかに高等教育の質を一層保証するかという問題に直面しています。また私達は、世界一流の高等教育を築くという目標、そして協力と交流を強化するという共通の願いを持っています。

近年、両国政府の強力なサポートのもと、両国の高等教育界はすでに積極的に行動を始めており、中日大学の学長会議が継続して召集され、人材育成と科学研究協力が進んでいることを嬉しく思います。今回の講演交流会の開催は、中日両国の教育評価分野における協力と交流を進める上での手本となり、他国の長所を取り入れ自国の短所を補う良い機会です。このような交流は、両国の教育評価制度をより良いものにするに役立つだけでなく、両国が学歴・学位の面での協力をさらに強化することにつながります。それにより、両国の大学間で人材育成における協力の規模が拡大し、人材育成における協力の質を向上させるためのより良い環境が築かれます。また、開催国と世界一流の高等教育に役立つことでしょう。

最後に講演交流会の成功をお祈りします。ありがとうございました。

司会（加藤）

李様どうもありがとうございました。尚、通訳をしていただきましたのは、胡志平一等書記官様でございました。どうもありがとうございました。